

Reference D3

Japanese Patent Publication No. 47-45072

Publication date: 14 November 1972

Application No.: 45-95354

Filing date: 29 October 1970

Applicant: Zenzo HOMMA, Hokohama, Japan

Title: Receptacle

⑤ Int. Cl.  
B 65 d

⑤ 日本分類  
133 A 312

日本国特許庁

⑩ 特許出願公告  
昭47-45072

⑩ 特 許 公 報

④ 公告 昭和47年(1972)11月 14日

発明の数 1

(全 3 頁)

1

2

④ 容 器

② 特 願 昭 4 5 - 9 5 3 5 4  
② 出 願 昭 4 5 ( 1 9 7 0 ) 1 0 月 2 9 日  
② 発 明 者 出 願 人 に 同 じ  
② 出 願 人 本 間 善 象  
横浜市港北区篠原町 1 1 5 8

図面の簡単な説明

第 1 図は蓋の断面図、第 2 図は蓋が容体に掛合 10  
する状態を表す掛合断面図を示す。

発明の詳細な説明

本発明は始めて閉蓋する時、閉蓋する作業だけ  
で完全且無理なく封印効果を呈し開蓋すると、そ  
の封印効果を破壊し、二度と再びもと通りになら  
ず開蓋したことがはつきりわかる様に工夫した容  
器に関するものである。

従来のは、容体の首部に突設せる螺子の下  
端に突部を設け、該螺子と螺合する蓋体の下縁に  
連結片を介して同一体に環体を内側面には凸部を 20  
突出させて成型し蓋体を容体の首部に螺動させ乍  
ら環体の凸部を容体の突部に乗り越えて掛止し蓋  
体を容体に締着密栓封印し蓋体を逆回転して蓋体  
と環体との連結片を切り離して開栓する様にした  
容器等があるが、これは連結片が弱すぎると環体  
の凸部が容器の突部を乗り越える時に切れてしま  
つたり、かと言つて連結片にあまり強度をもたせ  
ると環体の凸部が容器の突部を乗り越えてから開  
蓋する時連結片が切断されず逆回転出来ない等、  
連結片の強弱或は環体凸部と容体首部の突部の高 30  
低の度合にかなりの困難があつた。本発明はか  
かる欠点を取り除いたもので容器首部上に設けた螺  
子を断切するか又はその螺子の延長上に断続して  
突部を設けその突部と該首部上面に蓋体頂面内側  
が螺子圧接され首部螺子が蓋体内側の螺子山段部 35  
に摺動される時係合するようにした係合凸部を蓋  
体と切断可能にした環体内側面に形成した蓋と螺

合する容器に関するものである。以上図面によつ  
て説明すると容体首部 1 の螺子 2 を断切するか又  
はその延長線上に突部 4 を螺子 2 と断続して設け  
該容体首部 1 に切断可能に薄肉膜又は連結片 1 0  
5 を介して環体 9 を設けた蓋体 5 内側に段部 8 を有  
する螺子山 7 を刻設し又上記環体内側面に凸部 9  
を突設した蓋を図示するものである。尚符号 1 1  
は首部 1 上面と圧接するコンタクト・リングを示  
すものであつて第 2 図に示す如く閉蓋の過程に於  
いて蓋の螺合の折に首部 1 上面がコンタクト・リ  
ング 1 1 に圧接しその弾力性により、螺子山 7 段  
部 8 に首部螺子 2 が摺動しその結果環体の凸部 9  
が首部の突部 4 に係止薄肉膜又は連結片 1 0 を切  
断しない限り逆回転出来ないようにした蓋の一役  
15 をなうものである。日常われわれが時折キャッ  
プが締るとたん、ポキンと音をたてて空廻りする  
容器を見かけたり、体験することがあるが、これ  
は容器キャップ夫々の螺子山の掛止度が少い等の  
ために滑り越えてしまうためで、この点に着眼し  
て、本発明はこの現象を利用したもので、前もつ  
て閉蓋される時点で乗り越える様な高さを有する  
段部を絶対に滑り越さない高さにした螺子条に設  
け該蓋体の下縁に薄肉膜又は連結片を介して同一  
体に環体を形成しその内側面上記螺子条の延長上  
20 に凸部を突出した蓋を容体首部の螺子に螺動させ  
ていくと首部上面が蓋体内側にあるコンタクト・  
リングに圧接する、即ち該コンタクト・リングの  
弾力性により首部の螺子は蓋体の螺子条段部に乗  
り上つて摺動する。この時の寸前に上記の蓋の環  
体凸部は容体の首部の螺子の断切面又は、螺子延  
30 長上に断続して突設する。螺子条と下端面を同一  
勾配とする突部の下方を通過して首部の螺子の断  
切面の先方に至らしめる。蓋体螺子条段部に乗り  
上つた時点に於いては首部螺子条上側面と蓋体螺  
子条下端面とが接触して螺動していた状態が段部  
35 を首部螺子条下側面を摺動することになり、開蓋  
の際逆回転しても首部螺子条は蓋体の螺子条段部

3

を螺合するので環体凸部の後方端部が首部螺子条の断切面に掛止される結果となり、蓋体と環体との薄肉膜又は連結片を切断しない限り開蓋は不可能となる。しかし、一度開蓋した折には蓋体は単なる蓋として使用出来るようにしたことを特徴とするものである。以上の蓋に於いては一実施例を示すものであつて、段部を有する螺子条を蓋に設けたことの反対に容器首部に刻設しても同じであり、又螺子条を上記螺合の螺子のような効果を有する様な単なる数個の凸部と段部を有する突部を設けた場合でも同効果があることは当然である。故に本発明は、蓋体を容体に螺合することにより無理なく且完全に密栓封印の効果を同時に果すこ

4

とが出来内容物の充填時の生産性の増大が得られ、一度ギャップすることで容易に蓋体は容体から外すれないので運送中又は消費者に渡る前に於いて内容物が容体から流出せず内容量を確保出来る。又詰替、漏出防止等の目的で口部にシールする等手間もいらず実用的効果極めて大である。

#### 特許請求の範囲

1 容器首部の螺子の断切又は、その延長上に断続して突部を設けその断切又は突部と該首部上面に蓋体頂面内側が螺合圧接され、首部螺子が蓋体内側の螺子山段部に摺動される時係合するようにした係合凸部を蓋体と切断可能にした環体内側面に形成した蓋を特徴とする容器。

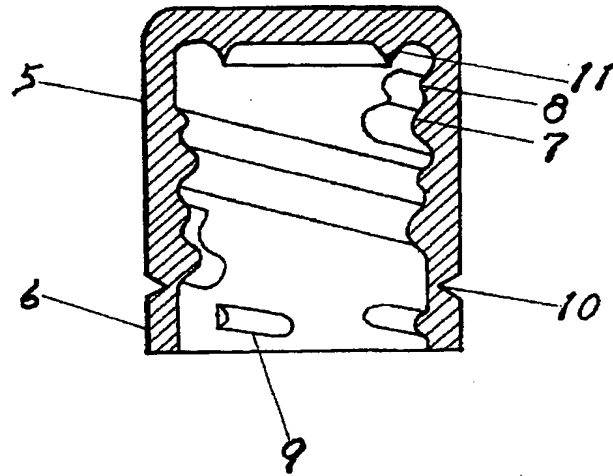


図 1

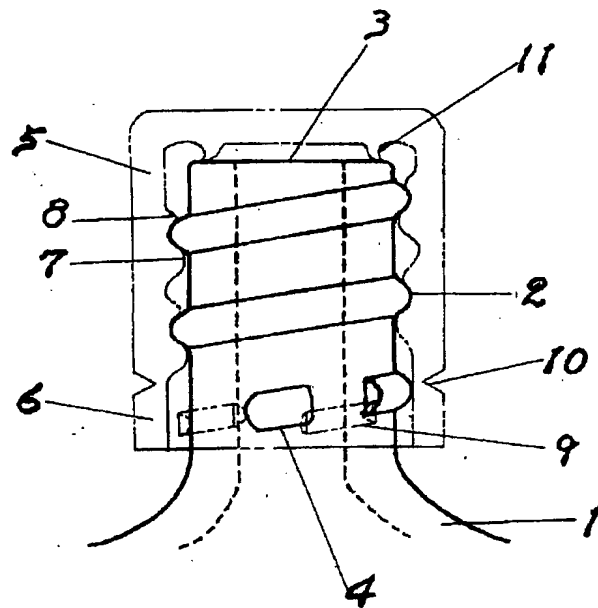


図 2